

## 無症候性脳室拡大

たまたま精密検査をしたら、頭の中に重大な異常が見つかった。さて、どうしよう。

75歳のU子さん。ドアに前頭部をぶつけたのに、後頭部が痛い。「さては、頭の中に出血でも?」と深刻である。MRI（磁気共鳴画像）では、脳には出血も挫傷もない。

だが、脳の真ん中にある脳室という水たまりが大きくなっている。脳萎縮のせいではない。前回取り上げた「特発性正常圧水頭症」にみられる特徴的な所見である。

ならば、歩行障害、認知障害、排尿障害があるではないか。慌てて診察をし直した。が、やはり、歩き方は至って普通だ。記憶のほうも、この名前がすぐに出てこないというが、年齢相応である。頻尿や尿失禁などもゼンゼンないという。となれば、病名は「無症候性脳室拡大（AVIM）」ということになる。

AVIMは、65歳以上の1%にみられるという。実は、特発性正常圧水頭症の前段階ではないかと考えられている。ある統

計では、約半数が、3年後に正常圧水頭症に移行したというもある。

症状が出るのは、脳室拡大のため、前頭葉が圧迫されるからだろう。例えば脳出血のように、突然起きるような病気では症状はすぐに出る。だが、特発性正常圧水頭症の進行は極めて遅い。ゆっくりと脳室は拡大する。こういう場合は、代償機転でも働くのか、脳の症状はギリギリまで我慢して出てこないものだ。

ところで、AVIMが進行したら、多くは、まずは歩行障害が、次に認知障害の順番で症状が出るようである。ならば、U子さんが歩きにくいと言うまで、手術の話をしていただいでおこうか。今は、異常があると聞いただけで腰を抜かしそうだ。

かといって、説明が不足すれば後で大騒ぎにもなりかねない。半年後には必ず受診するように話したが、大丈夫かな? U子さん。

(石黒修三・いしへろくクリニック・脳神経外科専門医・9/20北國新聞掲載)